

知事定例記者会見

日 時 令和8年6月9日(火) 14:00～14:18

場 所 別館2階 記者会見室

(知事)

それでは、最初に私の方から、今日は5点、ご報告をさせていただきます。

1点目はですね、6月2日からの台風第6号の対応等についてでございます。

今月2日から3日の台風第6号に伴う大雨によりまして、被害に遭われた県民の皆様、まずは心よりお見舞いを申し上げます。県では、台風が本県に接近する前の、6月2日午前8時30分に、「災害警戒本部」および「災害警戒方面本部」を設置をいたしまして、全庁的な情報共有体制のもと、大規模な災害の発生に備えてまいりました。また、先月29日から運用が開始をされました、新しい防災気象情報が初めて発表され、県や市町においても、この新しい情報に基づき対応をいたしました。今後、今回の対応を市町と検証するとともに、国や市町と連携して、さらなる制度の周知に努めてまいります。

県民の皆様におかれましても、これから本格的な出水期を迎えるにあたりまして、日頃から身の回りの危険な場所や、いつ、どこに避難するかをあらかじめ確認をし、「わたしの避難計画」の作成をお願いをいたします。

1点目は以上でございます。

2点目は、「静岡県ウェルビーイングピッチイベント」の開催についてでございます。「幸福度日本一の静岡県」の実現に向け、昨年度に引き続き、「静岡県ウェルビーイングピッチイベント」を開催をいたします。このイベントは、県が提示をいたしました、行政課題に対して、民間企業が、その技術やノウハウを活用して、具体的な解決策を提案するものであります。募集するテーマは、県の行政課題と県民幸福度調査の結果を踏まえ、「アンコンシャス・バイアスの解消による寛容な地域社会の実現」など5つでございます。

優れた提案につきましては、来年度以降の事業化を検討し、官民連携による行政課題の解決に繋げてまいります。なお、このピッチイベントには、私も出席をいたします。県内外の企業の皆様から多くの御応募をお待ちをいたしております。

2点目は以上でございます。

3点目は、若手職員による情報発信の強化についてでございます。

本県の将来を担う若年層の県民の皆様、県政への理解や興味を得ることは非常に重要でございます。そこで今年度は、若手職員ならではの感性や発想を生かし

た情報発信の強化に取り組んでまいります。

1つ目の取組としては、6月1日から、各部局の若手職員を中心に、職員の日常業務や現場の取組などを紹介する「毎日1投稿」を開始をいたしました。30秒から1分程度の動画コンテンツを、県公式SNSなどで発信をしております。

2つ目の取組は、若手職員による新たな広報企画や情報発信を行うチームとして、「広報クリエイティブラボ」を、5月25日に設置をいたしました。今年度は「富士山」、「食文化」、「健康寿命」のテーマごとに、5人のチームを編成し、若年層に“刺さる”発信を行ってまいります。

6月17日には、平木副知事をトップとする「広報戦略会議」を開催をいたしまして、各チームが今後の取組について計画を発表する予定でございます。報道機関の皆様におかれましては、ぜひ取材をお願いを申し上げます。

4点目は、「静岡県庁デジタルDIYラボ」の活動開始についてでございます。

昨年度、初めて行いました、職員政策提案制度で採用いたしました、「静岡県庁デジタルDIYラボ」が今月発足をし、活動開始をいたします。デジタルDIYラボでは、県庁内で応募があった有志の職員9名が、事務作業の自動化や業務システムの内製化など、高いデジタルスキルを活かした庁内業務の効率化に取り組んでまいります。

現在、私は、AI統括責任者、いわゆるCAIOとして、自ら先頭に立ってAI戦略を進めております。このデジタルDIYラボが、県庁におけるAI活用の牽引役として貢献することも大いに期待をしております。また、メンバーの皆さんには、持ち前のスキルと行動力を遺憾なく発揮をし、失敗を恐れず、新しいことに積極的にチャレンジする姿勢で取り組んでもらいたいと考えております。

5点目は、ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック・パラリンピック入賞者への知事特別表彰授与についてでございます。

今年開催をされました、ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックと、同パラリンピックにおきまして、入賞された2名の選手に対し、知事特別表彰を授与することを決定をいたしました。オリンピックでは、掛川市出身の三木つばさ選手（正しくは、「三木つばき選手」）が、女子スノーボードパラレル大回転で6位に入賞し、パラリンピックでは、牧之原市出身の坂下恵里選手が、女子バンクドスラロームで7位入賞、スノーボードクロスで8位に入賞いたしました。

本県は積雪が少なく、ウィンタースポーツに取り組むには、決して恵まれた環境とは言えません。そのような中、お二人は日々の練習や遠征を重ねて、世界の舞台で活躍をされました。その挑戦をする姿は、多くの県民、とりわけ次代を担うこどもたちに夢や希望を与えるものであります。今後もさらなる飛躍と、静岡県スポーツ

界をけん引する存在として、ご活躍を期待しております。
私からの報告は以上でございます。

(幹事社)

幹事社の朝日新聞です。ただいまの知事の発表について、質問のある社はお願いします。

(記者)

静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。

台風の被害についてなんですけれども、河津町のあの、伊豆急の土砂災害については、県の対応何か、あの先ほど、自民党の会派からも申し入れあったと思うんですが、どういう対応をとられますでしょうか。

(知事)

そうですね。今回の対応につきましてはですね、伊豆急さんも、そして河津町さんもですね、そして地元の建設業者の皆さんも、大変スピード感を持ってですね、対応していただきまして、早期にですね、運行可能になったということは、本当に良かったなというふうに思っております。今後ですね、さらにしっかりした対応というかですね、この処置をしていくために、河津町さん等々ですね、連携しながらしっかり県としてもですね、支援をしてまいりたいというふうに思っております。

(記者)

支援としては、こういったものが考えられるんですかね。

(知事)

これは担当の方からお願いをいたします。

(砂防課 西川課長)

砂防課長 西川と申します。よろしくお願いいたします。

具体的にですね、まだ、この事業でやるってということは、実は決まっていないうのが実情です。今、河津町さんとですね、県の中でですね、今、議論をしておりまして、決まり次第、事業の方を進めていくというような形になるかと思います。
以上でございます。

(記者)

ありがとうございます。

(幹事社)

よろしいでしょうか。はい。それでは、幹事社から質問します。

2025 年の国勢調査の速報値で、県の人口減少数が全国 2 番目となり、減少率も過去最大となりました。この結果への知事の受け止めと、今後の具体的な対策を教えてください。

(知事)

減少数はですね、全国 2 番目ということですけど、静岡県はご存知のように、非常に人口規模が大きいので、減少率(正しくは、「増減率」)でいくとですね、24 番目(正しくは、「27 番目」)だということを、まず申し上げたいというふうに思います。ただ、国全体としてですね、人口減少というのは加速をしておりますので、やっぱりこれ、危機感をですね、共有をしていきたいというふうに思っております。いつもお話し申し上げてるとおりですね、この人口減少の原因は、出生率の低下、これ 1975 年(正しくは、「1974 年」)にですね、合計特殊出生率の人口置換水準であります、2.07 を切って、50 年以上ですね、2 を切り続けているということでございますし、その出生率の低下のですね、大きな原因が、未婚化・晩婚化にあるということ、よく言われることでございます。

したがって、しっかりとですね、そうした結婚をしたいという思いを持った方にはですね、そういうチャンスをしっかり与え、サポートしていくようなですね、そんな取り組みをするといったこととかですね、しっかりと、抑制対策に加えまして、一方でですね、これあの、人口ってのは、これから確実に減っていくということが想定されますので、それに対する、しっかりと適応策をやっていく必要があるというふうに考えております。

(幹事社)

ただいまの幹事社質問に対する知事の回答について、質問のある社はお願いします。日経新聞さん。

(記者)

日経新聞です。

今の人口の話でですね、出生率の話もありましたが、自然減だけではなくて、若年層が県外に流出する社会減っていうのも、非常に顕著になってます。働く場所の問題であるとか、そういう経済の活力の問題にもなってくると思いますが、こういった社会減に対して、知事はどのような手を打っていかれるお考えですか。

(知事)

まず申し上げたいのは、圧倒的にやっぱり、この影響っていうのは、自然減だということは、申し上げておきたいというふうに思います。その上ですね、社会減対策でありますけども、やっぱり魅力ある職、仕事をですね、創出をするとか、やっぱり、この地域で生きていく、あるいは生活していくことがですね、非常に長い人生にとってメリットになるというかですね、非常に高い価値を持っているというようなことを、まず若い皆さんにですね、進学で外へ出ていくような前にですね、しっかりと、そのことをお伝えをしていくということで、私自身もいろいろ高校をまわって、特別授業やったりですね、という取組もしてますけども、そうしたいろんな積み重ねによってですね、やっぱりできるだけ、若年層の人に、この地域に定着をしてもらうということが大事だと思いますし、残念ながら地方はですね、やっぱりどうしても大学が少なかったり、進学で一旦、外に出ていくということは、やむを得ざることでありますので、一旦出ても戻ってきてもらうということが大事ですし、一方でですね、最近はですね、やっぱり子育て世代中心にですね、東京なんかで生活するのも非常に厳しい現状の中で、移住がどんどん、どんどん進んできておりますので、そういう移住の受け入れ先としては、静岡県というのはですね、最適な地域だというふうに思いますので、そうした取組を強化をしていきたいというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。

(記者)

静岡朝日テレビです。すいません。

人口減については、先ほども自然減で出生率の低下であったり、晩婚化っていうお話もありましたけども、とはいえ、静岡が全国 2 番目になってるっていう、ちょっと、やはり少し飛び抜けた。

(知事)

先ほどもお話ししたように、人口が非常に、県が大きいものですから、絶対数としては大きいんですけども、その、減少率(正しくは、「増減率」)で見ますと、24 番目(正しくは、「27 番目」)でございますので、大体平均ぐらいかなというふうに認識をしております。

(記者)

特に原因として、他の県とは違ったものがあるという認識は特にないと。

(知事)

特に、これはもう、全国的なやっぱり、傾向でございますので、基本的にやっぱり国全体として、この人口減対策は取り組んでいく必要があるというふうに思います。

(記者)

一方で、例えば有識者の方とかを含めて、この結果を踏まえて検討してもらう、有識者の人に検討してもらうとか、そういったことを考えて、今のところはない。

(知事)

今のところ、そういうことはございませんけれども、国と連動しながら、しっかり県として、きめ細かなですね、対策を、抑制対策、適応対策、両方やっていくということが必要かというふうに思っております。

(記者)

はい。テレビ静岡といいます。よろしくお願いします。

今の人口減に関してなんですけれども、国勢調査の結果がですね、発表されたことに対する率直な受け止めですね。予想よりも何か開きがあったのかとか、危機感をより抱いたのかとか、率直なその、受け止めに改めて教えていただけるとありがたいです。

(知事)

これはですね、人口ってほぼ予測できますので、今後もですね、人口が減っていくということは、もうこれ、国全体として予測をされていることでございますので、大きな驚きはありませんけれども、そうしたことに對してですね、しっかり対応していくということが必要だというふうに思っております。

(幹事社)

それでは 2 問目で、リニア中央新幹線について、JR東海による住民説明会が始まり、県の職員も同席して直接意見を聞き取っています。現状で住民の理解はどの程度進んでいると認識していますでしょうか。

(知事)

はい。これはまだ、22 日まで行われますので、全体としてのですね、状況を見ていかなければいけませんので、今の段階でどうこうというですね、コメントは差し控えたいと思いますが、これまでもですね、しっかりと、情報提供なり、情報をオープン

ンにですね、していくということには努めてまいりまして、専門家委員会もですね、リアルタイムで、全部、その状況を提供しておりますし、そうした資料は、全部ホームページで公開をしておりますし、大井川のですね、利水協でありますとか、沿線の市町、あるいは関係者の皆様にも、都度都度ですね、丁寧なご説明もしてまいりましたし、要望があればですね、出前講座なども繰り返してまいりましたので、これまでも、きめ細かなですね、ご説明はしてきたつもりでございます。

その、ある種、集大成が今回の説明会でございますので、県も同席をしておりますのでですね、JRさん(正しくは、住民)に寄り添って、しっかり住民の皆さんに説明をしていきたいというふうに思っております。以上でございます。

(幹事社)

ただいまの幹事社質問に関する知事の回答について、質問のある社はお願いいたします。NHKさん。

(記者)

NHKといいます。

リニア関連でお伺いします。知事ですね、先日民放の番組に、ご出演された際にですね、着工を巡る判断の時期について問われて、説明会とともに法令の事務作業が終わった段階で判断すると述べられた上でですね、ただそれが、うんと先に延びることはないというのは、なんとなくイメージとして分かっていたのではないかというふうに発言されてます。うんと先に伸びることはないというのはですね、どういったスパンで今、捉えていらっしゃるのか、ご認識を改めてお伺い。

(知事)

すみませんが、それについては、まだ分かりません。まだこれ、法令手続が進行中でございますので、あまり予断は交えて、そこはお話しできませんので、しっかりJR東海さんが、手続を行っていただいたということを踏まえて、判断をしてまいりますので、時期が来れば、また皆様にご報告させていただきたいと思います。

(記者)

今、現在としても、その、うんとさらに伸びることはないっていうのは、同じような認識ということは、変わりはありませんでしょうか。

(知事)

はい。それはもう、2年3年先に延びる、あるいは、5年10年先に延びるってことはないということでございます。はい。

(記者)

ちょっとそういうことで言うと、いつぐらいにですね、例えば、季節的なものでも結構ですけども、どれぐらいの時期にも判断できればというふうに。

(知事)

申し訳ございませんが、現時点ではコメントは差し控えさせていただきたいと思います。

(記者)

あと関連してですね、説明会に関してですね、一連の説明会が終わった後に、このJRの説明の状況をですね、これを評価するにあたって、県としてJRのですね、報告を受ける必要性などがあるかどうかとかですね、その辺については、いかがお考えでしょうか。

(知事)

JR東海さんとまた、調整しながら考えていきたいと思います。一応、各回ともですね、県の職員も同席をして、その状況もしっかりと今、見ておりますので、終わった段階で、しっかりそこは、JRさんと調整をしたいと思います。

(記者)

ありがとうございました。

(幹事社)

それでは、その他の質問のある社をお願いします。それでは、以上で記者会見を終わります。知事、ありがとうございました。

(知事)

どうも、ありがとうございました。